# 第96回 日本泌尿器科学会総会
# メンズヘルスセミナー2008　プログラム

## ご挨拶

Photo / Kayo Takahashi

我々は“男、面倒見ます泌尿器科”と唱えて、男性医学の中における我々泌尿器科医の果たすべき役割を、少し強調し過ぎる位に、啓蒙の旗を振っている。
男性医療は、医療現場でblack boxに入り勝ちで、局所的性器診察も含めた対応なくしてはあり得ないと主張し続けている訳である。
ただ問題は、生き物男の医学としては、更に全身的な所謂内科的な原点からのしっかりとした対応も、合わせ持ってこその臨床男性医学であることは、改めて述べるまでもないことである。しかし、往々に、生き物・男に対する2つのアプローチが必ずしも臨床現場では重なっていないことが多い。
その様な観点から、泌尿器科学会総会に泌尿器科の立場とは異なった視点からの生き物・男への視点は如何にあるべきかをその方面の権威である、白澤、秋下両先生から伺うべく、本企画を立案した次第である。
更に重ねて、この男性医学は国際的、ことにアジア諸国との関係の上での、幅広い交流をもって、所謂ethnic problemへの観点を深めつつ、進めなければならないが、その点に関し国際交流に積極的な活動をしておられる並木先生に、Asean及び欧米との合同学会を主催された結果をふまえての御意見を伺えることは、意義深いと期待している。

熊本　悦明

## 座長

**熊本　悦明** 先生
日本Men's Health医学会 理事長
日本臨床男性医学研究所 所長

**長久保　一朗** 先生
東京泌尿器科医会 会長
長久保クリニック 院長

## 開会の辞
17:30〜17:35

**奥山　明彦** 先生
日本泌尿器科学会 理事長

## 講演1
17:35〜18:05

### 『100歳まで男性! ～診療に役立つ酸化ストレスの話～』

先進諸国では、平均寿命は延伸し続け、少子高齢化が進んでいる。国民の医療費に占める高齢者医療費は増大する傾向で、何らかの抜本的構造改革なしには、近い将来、財政破綻を生ずる可能性が指摘されている。一方、高齢期の疾患構造は癌、脳卒中、心臓病などの生活習慣病が米国のみならず日本でも3大死因をしめ、生活習慣の欧米化に伴う動脈硬化症が高齢期疾患の基礎病態として、またQOL(生活の質)の影響要因として最も重要な医学的課題である。また、介護の観点からは、高齢期における神経・運動機能の低下が重要課題となっている。このように医療、介護の両観点から、高齢期における栄養管理、運動指導の重要性が指摘されている。特に加齢依存的に出現する疾患や機能低下は発症が個人個人で様々で、その程度にもばらつきがあるために、治療の介入時期、ゴール設定にばらつきがあるのが特徴である。一方、加齢性疾患は生活習慣の是正や食事、サプリメントの予防服用などの予防医学的な介入が今後の医学的課題である。
講演では100歳まで元気に生きるために必要なアンチエイジングライフの実践法や酸化ストレスの対処法などを解説する。

**白澤　卓二** 先生
順天堂大学大学院医学研究科　加齢制御医学講座　［教 授］

1958年神奈川県生まれ。1982年千葉大学医学部卒業後、呼吸器内科に入局。同大大学院医学研究科修了、医学博士。東京都老人総合研究所病理部門研究員、同神経生理部門室長、分子老化研究グループリーダー、老化ゲノムバイオマーカー研究チームリーダーを経て現職。専門は寿命制御遺伝子の分子遺伝学、アルツハイマー病の分子生物学、アスリートの遺伝子研究。
著書に「アンチエイジング・クッキング」「100歳まで元気に生きる食べ方」「老いない、病気にならない、方法」「ずっと若く生きる食べ方」などがある。

## 講演2
18:05〜18:35

### 『テストステロンとメタボリック症候群』

メタボリック症候群は、内臓肥満を基盤として、高血圧、脂質代謝異常、耐糖能異常が合併した病態である。たとえ各因子が軽症であっても心筋梗塞など動脈硬化性疾患の発症リスクが高く、働き盛りの中高年男性に罹患率が高いことが問題である。この年代は、いわゆる男性更年期障害であるLate-Onset Hypogonadism（LOH）の好発する集団でもあり、テストステロンとの関係には興味が持たれる。この2，3年に発表された疫学研究の多くは、テストステロンの低下がメタボリック症候群や動脈硬化と関連することを示しており、基礎研究の結果も概ねテストステロンの生理的役割を示唆する。その一方で、テストステロン補充療法の結果は必ずしも有効性を支持せず、適応の選択と使いやすい剤形の開発が今後の課題である。
講演では、演者の研究結果に文献的考察を交え、テストステロンとメタボリック症候群および血管機能との関係について述べる。

**秋下　雅弘** 先生
東京大学大学院医学系研究科加齢医学　［准教授］

1985年　東京大学医学部卒業
1994年　東京大学医学部老年病学教室助手
1996年　スタンフォード大学、続いてハーバード大学留学
2000年　杏林大学医学部高齢医学講師
2002年　杏林大学医学部高齢医学助教授
2004年　東京大学大学院医学系研究科加齢医学助教授
2007年　現　職

## 講演3
18:35〜19:05

### 『メンズヘルス、世界と日本の取り組み』

高齢化社会の到来にともない、高齢者の健康増進や予防医学が国家の政策としても重要性を増しており、21世紀医療の大きなテーマとなってきた。このような背景から、従来女性に対する医療と比較して遅れがちであった“Healthy aging for men”がようやく国際的な流れとなり、1998年にInternational Society for the Study of the Aging Male（ISSAM）が設立され、第1回国際会議がGenevaで開催された。アジアでも2001年にマレーシアで第1回会議が開催され、国際的にも早くからこの問題への取り組みが見られる。その理由は、現在ピラミッド型の人口分布を示すアジア諸国が将来の少子高齢化社会に先進国より経済的、社会的に大きな不安を持っているからと考えられる。本邦でも2001年11月に熊本悦明先生、名和田新先生を代表世話人に「日本Aging Male研究会」が設立され、2006年には「日本Men's Health医学会」と学会化し、「男性特有の医学的諸問題の診断、治療、予防対策に対して、基礎科学的、臨床医学的、更には社会学的に、研究・調査を行い、広く男性の健康についての正しい医療の開発・推進・発展に寄与する」ことを目的として発展している。

**並木　幹夫** 先生
金沢大学大学院医学系研究科泌尿器科学　［教 授］

1975年　大阪大学医学部卒業
1975年　大阪大学医学部附属病院研修医（第一内科、災害外科、泌尿器科）
1977年　国立大阪病院泌尿器科医員
1979年　住友病院泌尿器科医員
1982年　大阪大学助手（医学部泌尿器科学講座）
1991年　同講師（同講座）
1994年　同助教授（同講座）
1995年　金沢大学教授（医学部泌尿器科学講座）
2001年　同大学院医学系研究科教授（がん医科学専攻集学的治療学分野）

## 閉会の辞
19:05〜19:10

**熊本　悦明** 先生
日本Men's Health医学会 理事長
日本臨床男性医学研究所 所長